



## 『神様が望んでおられ、喜ばれる事』

今日の聖書本文:ホセア書6章1-6節・暗唱聖句:ホセア書6章6節

- 1「さあ、主に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、いやし、私たちを打ったが、また、包んでくださるからだ。
- 2 主は二日の後、私たちを生き返らせ、三日目に私たちを立ち上がらせる。私たちは、御前に生きるのだ。
- 3 私たちは、知ろう。主を知ることを切に追い求めよう。主は暁の光のように、確かに現れ、大雨のように、私たちのところに来、後の雨のように、地を潤される。」
- 4 エフラムよ。わたしはあなたに何をしようか。ユダよ。わたしはあなたに何をしようか。あなたがたの誠実は朝もやのようだ。朝早く消え去る露のようだ。
- 5 それゆえ、わたしは預言者たちによって、彼らを切り倒し、わたしの口のことばで彼らを殺す。わたしのさばきは光のように現れる。
- 6 わたしは誠実を喜ぶが、いけにえは喜ばない。全焼のいけにえより、むしろ神を知ることを喜ぶ。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間も主の平安のうちに心も、体も、信仰も守られ、お元気で過ごせましたか。今まで経験したことのないコロナウイルスの時代の中で、我々が神の信じる者として神は我らに何を望んでおられ、どう生きることを求めておられるのかについて、旧約聖書の預言書は、時代が変わっても今日生きる我らに大事に教えて下さる御言葉だと信じています。

そのため、先週から我らの預言書の中まず、ミカ書「神があなたに求めておられる事」というテーマとして、ミカ書6章8節に「主はあなたに告げられた。人よ。何が良い事なのか。主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩む事ではないか。」というメインの御言葉箇所を持って共に学ばされました。

今日はホセア書の御言葉を通して、神様が預言者ホセアを立たせ信じる民たちに何を望んでおられたのか共にお聞きしたいと願っております。

愛するみなさん、預言書が全部共通にそうですが、今日の聖書の本文でも、我々に重要な質問を投げかけています。それは我々が信じている神が我々にいったい何を望んでおられ、喜んでおられるのか！この質問の前に立っている我々に明確な回答を与えて下さっている内容が今日の御言葉であります。

**6節を見て見ましょう。「わたしは誠実を喜ぶが、いけにえは喜ばない。全焼のいけにえより、むしろ神を知ることを喜ぶ。」**この箇所を他の言葉で解釈しますと“わたしが望むのはいけにえの形ではなく、私に対する変わらない愛であり、全焼のいけにえより、むしろみんな神を熱心に知ることが望んでおられ、神は喜ばれる。”という御言葉の意味でしょう。

神が我々を通して喜ばれることについて、それは神を知ることでありと教えて下さっています！

今のコロナの不安な時の中で、我らの姿を振り返って見るとみなさんどうですか。正直、神に対する関心よりも、自分自身にもっと多くの関心を持っているのではありませんか。神様はどんなお方であろうが、神様が何を望んでおられるだろうが、いったい何を喜んで下さるだろうが、神様に関心を持つより、どうすれば自身と家族がもっとコロナウイルスにかからず、ずっと健康になるだろうか、どうすれば、自分がもっと幸せに、生きれるか、どうすれば自分がより豊かに、楽に、楽しんで生きれるか、つまり、自分自身のことにはしか関心が行っているのではありませんか。

**もちろん、みなさん、自分のためのそのような関心が決して悪いわけではありません！今日のホセア書の本文は、今日の我々にその前にもっと大事な関心と質問を持つべきであることを気づかせ教えて下さっているのです。**

すなわち、“今神が自分に、神がわれの家庭に、神が我らの教会に本当に望んでおられ、喜ばれるのは何なのか。”目を上げて神様への関心と御心が何であるのか。”でした。この質問こそ、人がこの地上で一度の人生を歩みながら、神様に聞くべき一番大事な質問とその答えかも知れません。ホセア書にはいったい我らがどう生きることを望んでおられ、喜ばれるのかとても大切な神様の御心を明らかにして伝えて下さっている大事な御言葉だと信じます。

### <1. ホセアとホセア時代の背景>

今日我々が共に読んだこのホセア書は、神の預言者であったホセアを通して、神の御心を伝え、記録させた御言葉であります。預言者ホセアはイスラエルが北イスラエルと南ユダ王国に分かれた時代に、珍しく北イスラエルの出身の者で、北イスラエルの人々に預言者として働いていた人でした。

紀元前755年～720年まで、つまり、紀元前722年、北イスラエルの首都サマリヤが滅ぼされる直前まで働いた神の人でした。同時代、南ユダ王国ではアモス預言者が働いていました。ホセアの時代の北イスラエル王国では、ヤロブアム二世王以後、王室内では殺害や陰謀が引き続いていただけではなく、霊的な信仰の面においても、とても堕落してしまい偶像崇拜を頻りに犯し、真の神に捧げる聖殿で定義的な礼拝は形だけ残ってしまったのです。つまり、北イスラエルの民たちは、神を信じる民だと言いながら、神に定期的に礼拝は捧げていましたが、実際イスラエルの民の心はもう神から遠く離れていたもので、心から神を愛するの、信じるのも遠く離れていた状態でした。そのような二重的、偽善的な北イスラエルの民たちに神は預言者ホセアを通して語った御言葉が6節でした。

**「わたしは誠実を喜ぶが、いけにえは喜ばない。全焼のいけにえより、むしろ神を知ることを喜ぶ。」**

愛する信仰の家族のみなさん！本来キリスト教の信仰は儀式的な信仰では決してありません。ある意味でそれがキリスト教と他の宗教との違いでもあります。

キリスト教は拝まれる像を作ったりしませんでした。古代宗教たちは共通点の一つあります。それは、いつも目に見える像を作ったり、人によって作られた物の前で拝んだり、崇拜する宗教行為と宗教儀式をみんな持っていたわけです。しかし、神様はそんなことなどを決して喜ばれず、むしろ忌み嫌うことであるとはっきり命じられています。その体表的な内容が、出エジプト記20章4～5節で神様はイスラエル民たちに与えて下さった十戒に書かれていたでしょう。「あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。」

ところが、徐々に教会の中にもそういう物が入って来るようになり、体表的なのが、中世期ローマカトリックの教会の中では自称‘聖像’という物が作られ、教会の中でも拝んだり、本来の信仰から儀式中心のキリスト教に変わってしまい、結局墮落の道に歩んでしまった事を我々は世界史と教会史を通してよく知っています。

## <2. ホセア書の内容と目的>

まず、ホセアの意味は‘救い’という意味を持っています。ホセアという言葉はヨシュアと同じ根のヘブル言葉として‘自由にさせる’、‘救われる’という意味を持っていた‘ヤシャ’から発生された言葉であります。ホセア書は全部14章で書かれています。このホセア書には他の神の預言者たちを通して記録された御言葉と違う独特(どくとく)な内容の面があります。

他の預言者たちはみんな神からの御言葉や命令を聞いてその神のメッセージを口で伝えたならば、預言者ホセアだけは自分が直接不幸な家庭を通して、言いかえりますと、直接自分の不幸な結婚生活を通して、北イスラエルの民たちに彼らの霊的な状態とそれに対する神のメッセージを伝えたのです。ホセア書の前半1—3章までの内容がその内容にあたります。神様はイスラエルの霊的な姦淫・霊的な浮気の状態を知らせるため、神の預言者ホセアに淫乱な女と結婚しなさいと命じられました。

ホセア書1章2節-「主がホセアに語り始められたとき、主はホセアに仰せられた。「行って、姦淫の女をめぐり、姦淫の子らを引き取れ。この国は主を見捨てて、はなはだしい淫行にふけているからだ。」」

大変従いにくい厳しい主の命令にも関わらず、預言者ホセアは神の命令に従い、淫乱な女であったゴメルという女を自分の妻としてめぐりました。ところが、結婚して預言者ホセアの妻となっても、このゴメルという女は関係なく、堂々と出て行ってまた浮気をしたり、淫乱な行為をあきらめず続きます！それに、夫ホセアはその現場に行って、彼女を家に連れて来たら、また家を出て他の別の男に行って、別の男に抱かれ、なほだしい淫乱な行為を繰り返しつつ諦めませんでした。それでも、神の預言者ホセアは淫乱な妻ゴメルを相変わらずまた家に連れて来て、妻として愛し続けます。普通の家庭でもしも一度の浮気であっても、許しがたいのに、常習的(じょうしゅう)に浮気することなら、夫婦関係や信頼性がもう破られ、夫婦関係にはとんでもない、一切許せない、ありえない出来事なのにも関わらず、どうして神の預言者ホセアがそこまでするように神様がホセアにそうさせたのか、理解しがたいところではありませんか。しかし、神様はこのホセアの家庭の問題、その夫婦関係の姿を通して、神を信じる民たちに変わらない重要な事実を教えようとされました。

神様は、当時のイスラエルの人々に、このホセアとゴメルの夫婦の姿を通して、淫乱な妻ゴメルは今の神の信じているイスラエルの民の状況を現し、それにも関わらず、また赦し、変わらない尽きない愛を示す夫ホセアは、神様を現していました！

結婚の夫婦の誓約を裏切り、淫乱なホセアの妻ゴメルの姿は、当時神の前で神から離れ、偶像崇拜をしていた霊的な浮気を絶え続いていたイスラエルの霊的な墮落、道徳的な墮落の姿を見せて下さいました。

反面、預言者夫ホセアは、それにも関わらず、淫乱な妻(イスラエル)がどんなにひどい罪を繰り返し続け、妻として、まったく資格のないとしても、家に帰って来たら、また彼女を赦し、本来の妻の立場と関係として、受け入れ回復させて下さる変わらない神の愛と赦しを現して下さっているわけでありです！！ホセアのように神様はあなた方をそのように最後まで捨てないで、耐え忍びながらイスラエルの民を哀れみ、尽きない愛を持って愛し続けて下さる神様である事をリアルに見せながら、教えて下さったのです。

ですから、妻ゴメルが偉かったのではなく、夫ホセアの一方的な愛と赦し、哀れみのゆえに、家庭が守られ、子供が生まれ、夫婦関係が維持されていたように、北イスラエルの民の中で、特別な資格があるからでも、他の民族より偉いからでもまったくなく、一方的な神の憐れみと赦し、その尽きない神の愛のゆえに、ここまですべての関係が守られていることを悟らせ、また悔い改めに促して下さるために、このホセア書が記録された目的であります。

ホセア書2章23節～3章1節に、「わたしは彼をわたしのために地にまき散らし、『愛されない者』を愛し、『わたしの民でない者』を、『あなたはわたしの民』と言う。彼は『あなたは私の神』と言おう。」3:1主は私に仰せられた。「再び行って、夫に愛されいながら姦通している女を愛せよ。ちょうど、ほかの神々に向かい、干(ほ)しぶどうの菓子を楽しんでいるイスラエルの人々を主が愛しておられるように。」

## <3. 神が望んでおられ喜ばれる3つの事>

愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん！神様は心からではないただある宗教的に儀式とか形を決して望まれ、喜ばれないことを今日の御言葉を通して知る事ができます。生きておられる主の前で献身のない礼拝、愛のないいけにえを好まない神様の御心が示されています。それでは神様がイスラエルの民たちに望まれ喜ばれることは何だったのでしょうか。6章6節です。「わたしは誠実を喜ぶが、いけにえは喜ばない。全焼のいけにえより、むしろ神を知ることを喜ぶ。」

このメイン箇所を通して我々は3つの点に注目したいと思います。

① 神様はいけにえ(礼拝)の形より、変わらない愛を喜んで下さいます。

“誠実”だと訳されているこの言葉は、先週ミカ書でも、同じく言われ教えられたように、ヘブル語で‘ヘセード’という言葉でその意味は‘尽きない、変わらない愛’を意味でした。先週ミカ書を通して、我らは、神様が求めておられる礼拝と礼拝者の真の姿として、神様の前で多くのいけにえよりも、助けが必要な周りの全ての人々に神の愛の分かち合いとその愛の行いと実践する生き方を求められ、愛のない形だけのいけにえは望まない事を共に学ばされました！

今日の御言葉の「わたしは誠実を喜ぶが、いけにえは喜ばない。」という御言葉でも、まったく同じ意味で助けが必要な兄弟姉妹への愛と赦し、親切も含まれていますが、ホセア書全体として教えて下さっているのは、もともとヘセード！その尽きない愛、変わらない愛と赦しが人からではなく、神様から信じる民に向かって注がれている愛の姿であるように、神の民も、神にそのように変わらない愛の心を保って神を愛することを喜ばれるのを大切に教えて下さっています！神様への愛のない表だけのいけにえや礼拝、献身は決して神様が喜ばれないという意味であります！

申命記6章4-5節、「聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」

新約聖書の中で、イエス様も、同じく神様がわれに望んでおられ、喜ばれることにこう教えて下さっています。

マルコの福音書12章28節-33節に、「律法学者がひとり来て、その議論を聞いていたが、イエスがみごとに答えられたのを知って、イエスに尋ねた。「すべての命令の中で、どれが一番たいせつですか。」29イエスは答えられた。「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。30心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』31次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」32そこで、この律法学者は、イエスに言った。「先生。そのとおりです。『主は唯一であって、そのほかに、主はない。』と言われたのは、まさにそのとおりです。33また『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして主を愛し、また隣人をあなた自身のように愛する。』ことは、どんな全焼のいけにえや供え物よりも、ずっとすぐれています。」

ですから、神様が信じ、従っている我々に神様が一番喜ばれることは、我らの愛の心！そのものであることでしょう。そうするために、まず、我々に向かう神の変わらない、尽きない、深い愛を知ってほしい、そして心を尽くし、力を尽くし、知性を尽くして神を愛することこそ、神が神を信じる民に一番望んでおられ喜ばれる神様であることが分かります！

神の預言者ホセアが神の命令し従って淫乱な女だったゴメルをめぐって3人の子どもが生まれました。実はその子達もホセアの子であるかも知れませんが、その後でも、またゴメルは主人と子どもたちを捨てて他の男と浮気をしながら、また淫乱な売春の生活に戻ってしまいます。そしたら、ホセア書3章2節によると、神に命じられている通り、最初彼女を連れて来た時のように、また銀十五シェケルと大麦一ホメル半でホセアはまた彼女を買い取り、彼女を連れて来てまた妻として受け入れ愛し続けます。

本来のイスラエルの律法によれば、夫や妻がいる、既婚者の妻や夫が、浮気をし、姦通した場合に、石投げをして殺すほど、重大な罪として罰せられた(申命記22章22節)のにも、関わらず、神様はその律法を超えて、耐え忍びながら、最後まで神を信じる民を愛しつづけて下さいました。

愛するみなさん、当時も、今日も夫婦の間で一度でもこのような淫乱な事があり、結婚の誓約をやぶたら、なかなか心から赦し、以前のように愛する事は難しいのが当然かもしれないのに、ホセアのようにだれがそんな事ができるでしょうか。それは、人の愛だけでは決して不可能かも知れません。ホセア書を通して、実は神ご自身が続けて神を背いて裏切っているご自分の民に対してすぐ裁かず、耐え忍びながら先に御手を差し伸べて下さり、神に立ち返って来ると、また赦し、変わらぬ愛を持って愛して下さい方であることを見せて下さっているのではありませんか。

イスラエルの民たちは神のみを愛し、信じる事を告白し、約束したことにやぶり、裏切って今、他の神々を拝んだり、崇拝していた霊的な姦淫して許されない罪人たちでしたが、それにも関わらず、イスラエルの民たちを相変わらず愛して下さい、また救い出す、その神の深い愛がどれほどのものであるかをこのホセア書には熱く教えて下さっています。その愛の神を我々も深く知り、受け入れ、その神を心から愛を持って信じ、仕えるように、主はそれを今日も信じる我らに望まれ、喜ばれます。信仰の形よりも、神との心から神様のみを信じ、その愛の関係を保って歩むことではないでしょうか。今、みなさんはどんな心構えで生きておられる神様に礼拝を捧げているでしょうか。正直に、最近神様の前でみなさんの心の状態はいかがでしょう。心を尽くし、力を尽くし、命を尽くして我らを愛された神の愛に対し、みなさんはどう答え、応答していらっしゃるでしょうか。夫婦の間で一番大切なのは、お互いが一方的ではなく、互いに忍耐と赦しを持って、変わらない愛、尽きない愛を持って命と人生全てを尽くして、お互い愛し合う関係こそ、一番幸せな夫婦関係と家庭の姿ではありませんか。夫婦関係で理解すれば、神の愛に対し、その愛を抱き、その応答として等しく愛し合っていることは決して無理やりの要求ではなく、一番当然で、大切なことかも知れません。

② 神はどんな罪を犯したとしても、神に立ち返って悔い改める者たちを喜ばれます。

神に立ち返る者たちを喜んで、神様はまた包んで下さり、回復させて下さるお方であることを表して下さい。(6章1節)

「さあ、主に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、いやし、私たちを打ったが、また、包んでくださるからだ。」

愛する信仰の家族のみなさん！我々が信じている神様は我らにどんな深い傷や過ちがあってもそれを癒し、まことの回復をさせて下さるお方あります。もちろん、時には我らが犯した罪やあやまちのため、神に打たれたりされる時もあるでしょう。しかし、神様は必ず、差し伸べて下さる赦しと救いの御手に我がちゃんとその手を掴み、神に立ち返って来る者たちには、必ず彼らを赦し、回復の恵みを与えて下います。神との約束を破り、神から離れ、神を裏切り、偶像崇拝をやった時でさえも、神様はイスラエルの民たちに‘ロ・アミ’と名づきながら、‘あなたがたはわたしの民ではない、わたしはあなたがたの神ではないからだ。’といわれましたが、

また主に立ち返って悔い改めるなら、「アミ」つまり、「わたしの民である」おっしゃいながら、彼らの神になって下さり、ご自分の罪を赦し、変わらない愛を持って神様との関係を回復させていただきます。

そして本文、2節を見ると「主は二日の後、私たちが生き返らせ、三日目に私たちが立ち上がらせる。私たちは、御前に生きるのだ。」と書かれています。この御言葉の意味は、神の回復の即刻(そっこく)な、迅速(じんそくせい)な神の赦しと癒しを約束される御言葉であります。

3節を後半見ると、「主は暁(あかつき)の光のように、確かに現れ、大雨のように、私たちのところに来、後の雨(春に穀物の収穫の前に実のために必要な雨)のように、地を潤される。」と言われました。この箇所の意味は「夜明けがかならず来るように、主も必ず来られ、毎年地を潤すために降る雨のように主はかならず具体的に助けて下さる、そして潤うされるように満ち本来のように回復させて下さる。」という約束です。いつも我々のそばにおられる神様は我々の痛みと傷、そして、全ての罪と弱さを知っておられ、ご存知です！しかし、それにも関わらず、あいかかわらず我々をたずねて下さり、耐え忍んで愛して下さる慈悲と哀れみ深い神様だからこそ、そのように語っておられるのです

ですから、愛する信仰の家族のみなさん！神に立ち返ることを躊躇せずに、後回しにしないで下さい。今すぐに示されたままに、今日中に神の御前で遜り、自身の罪を認め、さらけ出し、悔い改める者を主は喜んで下さいます。是非自分の努力を全部やって見ながら、最後の最後で自分でどうしようもできない時になってから、ようやく神様に立ち返ろうとすることこそ、神の前で人として一番愚かなことではありませんか。大変残念ながら、北イスラエルの民たちは、このホセアと妻ゴメルを通過して神様は、だれでもわかりやすく今のイスラエルの民の罪を教え、また赦される救われる道をも示して下さったのにも関わらず、かたくなで結局ホセア預言者のメッセージに傾聴せず、従わなかったことに、BC722年にアッシリアという帝国に完全に滅ぼされることになってしまいます！

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

神様は我々が完璧な者ではないことをご存じであります。神の前で完璧に生きることも望まれません。時には、願わなかった罪を犯し、神様が喜ばれないことを知ってながらも忌み嫌うことをやってしまう失敗の時もあるでしょう。実に、神の憐れみと尽きない愛と赦しがなかったならば、この世の中で生き残される人は何人ぐらいでしょうか。ただ一方的に上から今も変わらず注がれている神様の恵みのゆえに今も我らは赦され、救われているのではありませんか。

神に立ち返る時こそ、神によってみなさんの傷を覆って癒し、我々を愛されている神の子どもとして本来の自分らしく回復される近道であることを忘れないで下さい。ですから、いつも、神に立ち返ろうと信仰の心構えと謙遜な姿勢を保つ我々となり、神に赦され、愛され、喜ばれるみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます！！アーメン！！

### ③ 三つ目、神様は神ご自身を知る事を喜ばれます。

ホセア預言者はイスラエルの民の神様に対する背きと偶像崇拜、不義と不正など、人間の罪の結果を扱う前に、一つ根本的なイスラエルの民問題の原因を指摘しています。それが4章のはじめの部分です。どんな問題でしょうか。4章1節以下をご覧ください。「イスラエル人よ。主のことばを聞け。主はこの地に住む者と言い争われる。この地には真実がなく、誠実がなく、神を知ることもないからだ。」一番大切な根本的問題は神を知る知識がなかったと言われました。4章6節にも「わたしの民は知識がないので滅ぼされる。あなたが知識を退けたので、わたしはあなたを退けて、わたしの祭司としない。あなたは神のおしえを忘れたので、わたしもまた、あなたの子らを忘れよう。」

イスラエルの民は神を信じる形は持っていました、実際には神がだれであって、どんな方なのかについての実際体験し知ったことがなかったという事です。このホセア書の核心は神を知ろうということです。これは2章8、20節、4章1、6節、5章4節、6章6節など繰り返し強調されています。

イスラエルの民がこのホセア預言者を通して与えられた神のメッセージに、神を知らないと言われたら、彼らは「はい！そうです！」と素直に同意が出来たと思いますか。当時のイスラエルの民は、ホセアに対して、あざ笑いをしながら、決してそう思わなかったと思います。「おれたちこそ、一番神を知っている神に選ばれ、用いられている、祝福された民族ではないか。今も真の神を知り、このように礼拝を捧げているのではないのか。ちゃんと律法に書かれている内容を我らより、たくさん知っている者たちがおるのか。」自慢したのではないのでしょうか。しかし、神様は、あなたたちは本当な神を知らない、無知であると指摘して下さっているのです。

神様が我々に本当に願っておられ、喜ばれることは何でしょうか。民たちの根本的な問題は神様に対する無知でした。背きも、偶像崇拜も、不義もみな神を本当に知らないからだと言われています。

ここで、大切な神様を「知る」という言葉の意味は、ヘブル語で「ダアツ(daath)」で、「知識・理解」という意味ですが、この「ダアツ」という言葉は、もともとヘブル語「ヤダ(知る)・ギリシャ語(ギノスコ)」という言葉から派生された言葉であります。

ここで、「ヤダ(知る)」という言葉は、決して、頭で知る情報や知識ではありません！まるで、夫婦が結婚して初夜夫婦関係を結ぶ経験によって一体となり、お互いを知ることが出来た時に、この「ヤダ」という言葉は使われていた言葉であります！

ですから、ここで神を知るというのは、情報的に頭で分かって知っている意味ではなく、体験として、個人的に、人格的に、親密的な関係によって知ることを意味であることを忘れないで下さい。

イスラエルの民たちは、神について聞いて頭ではわかっている、実際日常の生活の中で、まったく生きておられる神を体験したり、神様との関係はまったく切れていて日々生きておられる神体験、神を知ることはまったく出来てない状態でありました。

愛するみなさんは最近いかがでしょうか。今も神様が我々に願い、喜ばれることは、Knowing about God(神について)知ることがなく、Knowing God!(神を知り日々体験)することを喜ばれます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！先週一週間いかがお過ごしでしょうか。

みなさんは、日々生きておられる神様を実際体験し、神様がどのようなお方であるか経験されているでしょうか。

いつのまにか、ただ、神様について頭で知って、分かっているところで、まるで、死んだ神かのように、まったく日常の生活の中で神様と離れ、孤独に一人で歩んでいるみなさんはいらっしゃらないでしょうか。

もっと神を知る事に励まなければなりません。“主を知ろう。主を知る事を切に求めよう。”これこそ、我々の人生に訪れるまことの神の愛と回復経験することができる幸いな道であるとホセア書は教えて下さっているのではありませんか。

このホセア書の御言葉は我々にも同じく与えられる御言葉です。今日も神様が願い喜ばれることは今も生きておられ、我との親密な関係と交わりを通して、今日も実際神様がどんな方であるか体験し、その神を愛して歩むことでした。

我々が信じている神様はどんな神様ですか？神様は今日も形だけのいけにえより移り変わらない愛を知り、我々にもその愛を持って信じ、従うことを願っておられます。いけにえの形より神をより深く知る事を願っておられます。今日のホセア書は神様の愛がどんな大きいのかを表して下さる御言葉でした。我々が信じている神様は我々を最後まで愛して下さる方であり、主に立ち返って悔い改める者には哀れみを施し、我々を赦し、まことの回復と癒しを与えて下さる方です。

フランスの世界的な神学者であり、哲学者であり、数学者だったブレイズ・パスカル(Blaise Pascal)という人は彼の名作「パンセ」((仏:pensée)は日本語で「思考」の意味)で、彼は「人は神を正しく知らない為、人は自分を正しく知ることが出来ず、常に不安である」と指摘しながら、人が神を知ることこそ、人らしさを取り戻すことが出来る近道であることを述べています。

今の時代預言者のような存在はいませんが、旧約時代より、明確に神を知り、体験出来る事が与えられています。

聖書を通して、可能でしょう。御言葉を通して、日々神様を悟り、体験して生きる人は生きていながら、体験する様々な問題の前で、恐れ、不安な時にすぐ神様に頼り、委ね切って歩めます。人生の諸問題に対し、神中心、聖書中心に理解することが出来るでしょう。御言葉を通して、神を知れば知るほど、複雑なこの世の中でも、シンプルな生き方に変わっていくことが出来ます。

ただ、今も、今日も神様が喜ばれることが何なのか集中すれば、生き方がシンプルになって来ましょう。

詩篇9篇9-10、12-14節「主はしいたげられた者のとりで、苦しみのときのとりで。10御名を知る者はあなたに拠り頼みます。主よ。あなたはあなたを尋ね求める者をお見捨てになりませんでした。主よ。私をあわれんでください。私を憎む者から来る私の悩みを見てください。主は死の門から私を引き上げてくださる。14私は、あなたのすべての誉れを語り告げるために、シオンの娘の門で、あなたの救いに歓声をあげましょう。」

17世紀後半から18世紀前半万有引力((ばんゆういんりょく・Universal gravitation))の発見などの世紀多数の業績で知られているイギリスの物理、天文学者であり、哲学者、数学者であったアイザック・ニュートン(Isaac Newton)は、残念ながら、晩年の時に記憶喪失になり、一生涯あんなに積み重ねて来た全ての知識を忘却(ぼうきやく)してしまい、自分の名前も、誕生日すら覚えられないニュートンの弟子たちがある日訪ねて来て、こう言われました。

“先生、生涯勉強と研究ばかり励んで来られた、数え切れないほどの理論や知識が先生の頭に全部消え去ってしまったは本当ですか。本当に何も覚えられないでしょうか。”その時、ニュートンはあの有名な言葉を残しました。

“私<sup>が</sup>知<sup>って</sup>覚<sup>えている</sup>一<sup>つ</sup>はあ<sup>る</sup>。それは自<sup>分</sup>が罪<sup>人</sup>であ<sup>る</sup>ことと、イエスキリストが私<sup>の</sup>救<sup>い</sup>主<sup>である</sup>事<sup>実</sup>だ！これ以外にもつとど<sup>んな</sup>知<sup>識</sup>があ<sup>る</sup>の。”

神様をより深く知ろうとすればするほど、我々の生き方が変わり、我々の価値観が変わり、神を信じる信仰も、礼拝をささげる姿勢と心構えも変わって来ると信じます。神様を体験し、知る事によって、自分が今日もどう生きるべきなのか、自分は何をすべきなのか、どちらの方向へむかうべきであるかが神様から日々示され、明らかに見えて来ると信じます。

エレミヤ書9章24節「誇る者は、ただ、これを誇れ。悟りを得て、わたしを知っていることを。わたしは主であって、地に恵みと公義と正義を行なう者であり、わたしがこれらのことを喜ぶからだ。—主の御告げ。—」

イエス様は、ヨハネの福音書17章3節に「その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。」

コロナウイルスのせいで色々な不安やストレスにかかえています。神様を見上げるより、目の前のご自身の事で背いっぺいかも知れません。仕事や家事や様々な用事や都合などによりみなさん、疲れてお忙しいでしょう。しかし、もしかしたら、生きている間にはずっと同じかも知れません。しかし、今の時代の中にあっても、我らがさらに幸いな人生と家庭を守り送るため、譲ってはいけない事があります！一生謙遜に主の御言葉と祈り、神の愛を小さな実践と行いを通して、神との関係を親しく保ち、神様を日々深く体験し知ろうとする努力です！日々尽きない神の愛と変わらない憐れみと赦しが聖書の約束だけではなく、実生活の中で、日々体験出来、神様に喜ばれ、幸いな人生をおくる事が出来るみなさんとなりますように主イエスキリストの御名によって切にお祈り申し上げます。また今日から、自分の知識に頼らず、また謙遜に神様に立ち返って、神との関係をしっかり保って行こうではありませんか。願わくは日々、みなさんの生活中で変わらない神の愛がみなさんに注がれ、示された罪を取り除かれ、行くべき日々の道が示され、主と共に喜んで歩まれるクリスチャンプレイズチャーチの愛する信仰の家族となりますように主の祝福をお祈り申し上げます。アーメン！